

かわさき 図書館だより

第7号
平成17年6月1日発行

図書館ホームページ : <http://www.library.city.kawasaki.jp/>

韓国・朝鮮語、中国語図書を検索が可能に!

韓国・朝鮮語、中国語図書がデータベース化されました

川崎市立図書館では、市内在住の韓国・朝鮮、中国出身の方に必要な情報を提供し、市民の多文化理解にも役立つようにと、川崎区の川崎図書館を中心に韓国・朝鮮語の本、中国語の本を約3,200冊所蔵しています。

しかし今まで、図書館のコンピュータシステムでは、韓国・北朝鮮で使用されているハングルや、中国で使用されている漢字「簡体字」の入力ができず、これらの本をコンピュータで検索することができませんでした。

そこで昨年より韓国・朝鮮語、中国語など多言語で利用できるシステムの開発に取り組みました。所蔵の韓国・朝鮮語の本、中国語の本のデータベース化をすすめ、今年3月末に「韓国・朝鮮語資料 中国語資料検索システム」として稼働させることができました。

利用者の方がご自分で検索できるコンピュータを

つぎの4館に設置しています。どうぞご利用ください。またぜひ多くの方々にお知らせください。



ハングル・簡体字を入力して検索ができます

「韓国・朝鮮語資料 中国語資料検索システム」設置館

図書館名	電話	住所	最寄の交通機関
川崎図書館	044-200-7011	川崎区駅前本町12-1 (タワー・リパーク4階)	JR・京浜急行線川崎駅から徒歩2分
中原図書館	044-722-4932	中原区小杉町3-417	南武線・東横線・目黒線武蔵小杉駅から徒歩3分
宮前図書館 (宮前文化センター)	044-888-3918	宮前区宮前平2-20-4	田園都市線宮前平駅から徒歩10分
麻生図書館 (麻生文化センター)	044-951-1305	麻生区万福寺1-5-2	小田急線新百合ヶ丘駅から徒歩5分



任展慧氏からおよそ1,500冊もの韓国・朝鮮の歴史資料などを寄贈していただきました。その内容は李氏朝鮮の初代太祖の時代から哲宗に至るまで25代472年間の歴史を編年体で編纂した漢文記録「朝鮮王朝実録」全49冊などを含む貴重なコレクションです。この「検索システム」の稼働にあわせて、これらの資料を徐々にデータ化し、中原図書館で閲覧開始していきます。ご期待ください。



川崎ゆかりの作家、 島田雅彦氏をお迎えして



平成17年3月19日 中原市民館大ホールにて

たくさんの方に図書館を利用していただくこと、図書館のPRもかねて、著名人を招いて毎年開催している講演会。昨年度は、麻生区在住の若き作家、島田雅彦氏を講師に迎え、中原市民館大ホールで実施しました。

当日は「島田雅彦氏と語り楽しむつどい」と題してトーク形式ですすめられました。島田氏独自の文学論や、代表作の生まれたきっかけなどを、個性的でユーモアたっぷりの語りくちでお話いただき、参加者からは、「博識でマルチな話でとても楽しかった」と、好評をえた講演会でした。

講演会での島田氏語録

代表作ともいえる「無限カノン 三部作」について

歴史の記述からはオミットされてしまう、その感情を中心に書いてみたい、と。史実そのままに書くのも大変ですけど、こちらが組み立てていったフィクションを、いかにもあったことのように書いて読者を騙す。見事に騙す。これが腕の見せどころ、みたいなどころがあるわけですよ。こんなに誰もが信じる嘘をついた、完璧な嘘をつき通した、ということに、職人魂はうち震えるわけなんですね。

作家とは

作家にもキャリアというものがあって、同じような作風でやっても、文壇とか読書界に認知されるのに10年くらいかかっちゃうんですね。とりあえず10年もてば、ある1つの作風では認知されるでしょう。しかし問題なのは、次の10年です。つまり20年目に向けてのキャリアなんですね。ここで冒険しなくちゃいけないと思います。それまでの作風を捨てる覚悟も必要かと思えます。そうやって、まったく違うジャンル、また、作風で勝負をかけてみて、必ず1個か2個は失敗作を書くことになりま。でもまあ、そこを10年ふみとどまれば、大丈夫でしょう。

熟練工の技っていうのがありますよね。どの世界でも、30年選手のなりかたっていうのは、それしかないんでしょうね。ベテランになると、素材がなくなっても、技術が残る。技術さえあれば、何でも書けるんだ、ということなんじゃないかな。



講演会こぼれ話

講演会終了後、海外にお立ちになることから、当日のサイン会実施が危ぶまれたのですが...。「たとえ30分でも、時間が許す限りやりますよ。」との島田氏の温かいお言葉に甘え、予定を繰り上げて、講演会に先立ってサイン会を実施するはこびとなりました。島田氏のご指定の筆記具は、なんと筆ペン。流れるような筆さばきでサインをしてくださり、島田氏と参加者の皆さんとのふれあいの時間がもてました。

お知らせ

図書館資料のコピーについて

川崎市立図書館では著作権法遵守の考えから、6月1日より図書館資料の複写を申込み制にいたします。

みなさまのご協力をお願いいたします。

複写を希望される際はカウンターで申込みをお願いします。

複写の目的は個人の調査研究のために限られます。

複写は一人につき、1複写部分1枚までです。

複写できる範囲は資料の一部分（半分まで）です。

（ただし、著作権の対象外である行政資料は半分以上を越えてコピーすることができます。）

地図については1枚がひとつの著作物です。

（住宅地図など見開きが1枚の地図となっている場合はそれをひとつの著作物として取り扱います。）

雑誌の最新号の複写はひとつの記事について2分の1以下となります。



観察とヒントと アイディア

好評だったサトウサンペイ氏講演会

多摩区文化協会・多摩図書館共催 第8回読書普及文化講演会
多摩市民館大ホールにて

去る3月2日 『フジ三太郎』『夕日くん』などでおなじみの漫画家サトウサンペイ氏の講演会を開催しました。この講演会は昨年秋に予定されていたものの台風のため延期となり、今回先生のご好意と多くの方々からの開催を望む声によって改めて実現いたしました。当日は寒い夜にもかかわらず、800名もの方が来場されました。

サトウ氏は、朝日新聞に27年間四コマ漫画『フジ三太郎』を長期連載していました。当時は毎日朝から晩まで何を描こうか考えていたそうです。なかなか描けず苦勞する日もあれば、日常生活の中のふとしたことがヒントになってパッとひらめいた日には、次々に作品を描くことができたとのこと。そうした経験から漫画を作るのに大事なことは、一番目が「日頃からの観察」、二番目が「ヒント」、三番目が「アイディア」であり、それは漫画に限らずほかの仕事をする上でも同じことではないかとおっしゃられていました。講演は、なつかしの『フジ三太郎』やイラスト、著書などをスクリーンに映し、エピソードを交えながら紹介してくださいました。サトウ氏の作品同様ユーモアあふれるお話に笑いの絶えない講演会となりました。

ベストセラー本の予約急増と図書館の対応について(お願い)

川崎市立図書館では2002年12月に館内の検索機から、2003年1月にインターネットから、図書館の蔵書に予約が出来るようなシステムを導入しました。このシステムの導入後、予約制度の利用件数は新システム導入前の2001年度の25万件から、2004年度には95万件と約3.8倍に伸びており、現在も引き続き増加傾向に衰えが見えない状況です。

このような中で、特にベストセラー本に予約が集中する傾向が顕著となっています。最近では、最も人気のある本には常に1,000件以上の予約待ちがある状態になっています。図書館では、少しでも予約待ちの期間を短くするため、予約件数が10件増すごとに1冊ずつ複本を買い足す努力を続けておりますが、限られた予算の中では限度があり、このままでは市民の幅広い読書要求に答え資料を収集するという図書館の持つ本来の役割が果たせなくなるまでに事態は深刻化するに至っています。また、昨今図書館のベストセラー本の大量購入に対し出版界や文芸家協会などから疑問の声があがっている事実も真摯に受け止める必要があると思っています。

そこで、本年度よりベストセラー本の複本の取り揃えについて、以下のような制限基準を設け市民の皆様のご協力をいただけるようお願いをすること

となりました。ベストセラー本愛好の皆様には、ご迷惑とは存じますがご理解をいただけますようお願いいたします。

ベストセラー本購入冊数の上限設定について

(2005年3月川崎市立図書館長会議)

複本の購入については原則として、予約10件に対し1冊を買い足していく。ただし、ベストセラー本については地区館(7館)については3冊を複本数の限度とし、分館・閲覧所(6館)については、2冊を限度として設定する。(合計33冊を複本数の限度とする)

なお、ベストセラー本については、今後も利用者からの寄贈をあわせて呼びかけていく。



《現在予約の多い本》	2005年5月17日現在
ダ・ヴィンチ・コード 上	1,227件
ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団 上	889件
ダ・ヴィンチ・コード 下	887件
対岸の彼女	852件
いま会いにゆきます	847件

かわさき歴史めぐり (6)

徳川氏の関東入国と川崎市域 6

法政大学名誉教授

村上 直

次に東海道筋の川崎宿の方へ目を向けてみることにします。戦国時代には本城小田原を中心とした北条氏の領国が拡大するにともない、支城との連絡を密接にしていくなため交通路が整備されていきました。東海道筋の行程については、玉縄城下の藤沢、青木城下（横浜市神奈川区）の神奈川・子安、江戸城下の江戸、葛西城下（東京都葛飾区）の葛西新宿には伝馬奉行や問屋も設けられていたといわれています。こうしてみると、江戸時代の五街道設置の前提となる主要道路が、すでに存在したとみることができます。そして、小田原北条氏の領国下において、伝馬（公用の貨客を運ぶ馬）も次第に制度化されていきましたから、徳川氏の関東入部以後もそれを踏襲発展させることになったといえることができます。

さて、家康の入部から6年目の慶長元年（1596）10月2日、江戸城増築の御用石の運送についての伝馬証文には「江戸より小田原まで、石きり伝馬吉疋、相違なく相廻るべく候」と、代官頭伊奈熊蔵忠次・長谷川七左衛門長綱・大久保十兵衛長安・彦坂小刑部元正の連署によって各宿駅に与えられています。その道筋は「糸と（江戸）品川、かの川（神奈川）ほとかや（保土ヶ谷）藤沢、平塚、大磯、小田原まで」とあります。

さらに翌2年6月12日には、三島（伊豆）から江

戸まで、2人の雇い人と伝馬8疋を出すことを命じた伝馬証文が、伊奈・長谷川・彦坂・大久保と松下総十郎伊長の連署によって出されています。その道筋も「三島・小田原・大磯・藤沢・ほとかや・神奈川・品川」そして江戸となっています。各宿駅に与えられたコースは、のちの東海道の宿駅と一致します。ただこの場合、川崎と富塚（戸塚）はありません。これによって、戦国時代から徳川氏の関東入部以後も、川崎宿は成立していなかったことは確かです。

慶長5年（1600）9月の関ヶ原の戦いの前に、多摩川には六郷橋が架橋されています。その翌6年正月に、家康は代官頭伊奈忠次、大久保長安、彦坂元正の署名によって品川宿をはじめ東海道の宿駅に伝馬 掟 朱印状および代官頭添え状と伝馬定書を公布しています。ここでも川崎宿は対象になっていません。

それでは川崎宿の宿駅状態はどのようなだったのでしょうか。『新編武蔵風土記稿』によりますと「相伝ふ昔は今の宿内の地、大抵、砂子・久根崎二村なりしが、御打入の後、長谷川七左衛門長綱承にて、町の地割を改め、人馬の役を命ぜり、此時、土地のさま大に古を変ぜり」とあります。この意味をどのように理解したらよいのでしょうか。

蔵書点検のための休館

5月から10月にかけて、下記の日程で蔵書の点検を行います。期間中は休館となり、ご迷惑をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。

蔵書点検期間		高津図書館	6月14日(火) ~ 6月20日(月)
田島分館	5月16日(月) ~ 5月19日(木)	多摩図書館	6月20日(月) ~ 6月26日(日)
大師分館	5月16日(月) ~ 5月19日(木)	柿生分館	8月 8日(月) ~ 8月10日(水)
菅閲覧所	5月23日(月) ~ 5月26日(木)	幸図書館	9月27日(火) ~ 10月 3日(月)
橋分館	5月24日(火) ~ 5月26日(木)	日吉分館	10月 5日(水) ~ 10月 7日(金)
中原図書館	5月31日(火) ~ 6月 6日(月)	宮前図書館	10月11日(火) ~ 10月17日(月)
川崎図書館	6月 6日(月) ~ 6月12日(日)	麻生図書館	10月17日(月) ~ 10月23日(日)

編集・発行 川崎市立中原図書館

〒211-0063 川崎市中原区小杉町3-417

044-722-4932

川崎市立図書館：

川崎図書館(200-7011) 高津図書館(822-2413) 麻生図書館(951-1305) 大師分館(266-3550) 橋分館(788-1531)

幸図書館(541-3915) 宮前図書館(888-3918) 田島分館(333-9120) 柿生分館(986-6470)

中原図書館(722-4932) 多摩図書館(935-3400) 日吉分館(587-1491) 菅閲覧所(946-3271)